資料2

本県教育の現状と教育施策の方向性

令和8年10月28日

青森県教育委員会

青森県基本計画における施策体系（教育委員会所管の10の施策）

あおもりの未来をつくるこどもたちのための学校教育改革

施策1　「知・徳・体」の調和の取れた「生きる力」の育成
施策2　グローバル社会への対応と主体的に社会に参画する学びの推進
施策3　「生きる・働く・学ぶ」をつなぐキャリア教育の推進
施策4　多様な教育的ニーズへの対応
施策5　こどもの学びを支える教育環境の整備ときめ細かな指導の充実に向けた人財の確保・育成
施策6　学校・家庭・地域の連携・協働の推進

元気な地域づくり・人づくり

施策7　地域の強みを生かした地域づくりと人づくり
施策8　人生100年時代の学び直しや生涯学習の推進

文化・スポーツの振興

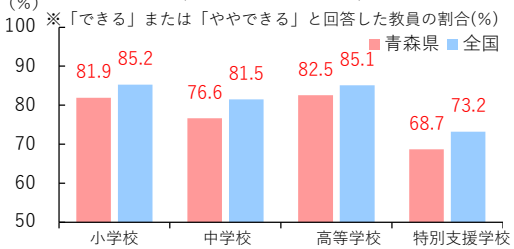
施策9　歴史・文化の価値や魅力に対する理解と活用の促進
施策10　楽しく体を動かしスポーツに親しむ環境づくりと競技力の向上

施策1 「知・徳・体」の調和のとれた「生きる力」の育成

【現状・課題→主な取組】
○ 生徒1人1台学習用端末を活用し、学習を進めるためのデジタル教材が不足。個々の理解度に応じたこどもたちの学びの質の向上が必要
→ 1人1台端末の整備・更新、教科「情報」・「外国語」の生成AIを活用したデジタル教材の導入・活用、ICT教育サポーターの配置、遠隔教育システムを活用した補修や授業の配信の実施・検証
○ 児童生徒を取り巻く環境の変化に伴う生徒指導上の課題の複雑化・深刻化
→ スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置・派遣（R8：SC83人, SSW31人）
○ 肥満傾向児出現率が高く、児童生徒の運動習慣と適切な食習慣の定着が必要
→「生活習慣病予防プログラム（学習指導案及び教材）」の作成（R8は高校生用のプログラムの検証）、学級単位で様々な運動種目に取り組む「あすなろっ子元気アップチャレンジ」の実施

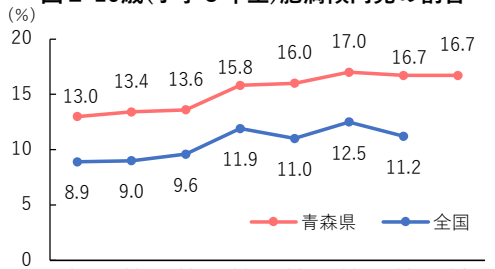
【参考指標】

図１ 児童生徒のICT活用を指導する能力（2026年３月時点）



資料：文部科学省「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」

図２ 10歳（小学５年生）肥満傾向児の割合



資料：教育庁「青森県学校保健調査」
文部科学省「学校保健統計」

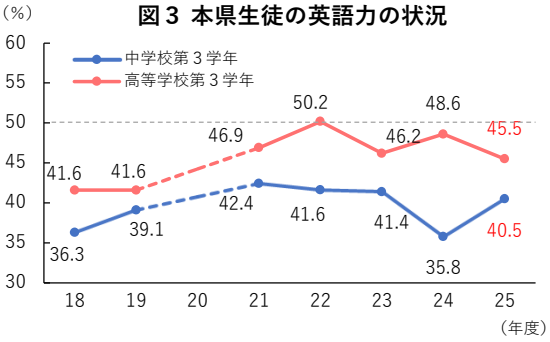
【今後の方向性】
○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実（デジタル教材の活用等）、これからの時代に求められる資質・能力の育成（情報活用能力等）、教育DXの促進（教育ダッシュボードによる教育データの利活用、遠隔教育の促進）
○ いじめ、不登校、問題行動等への対応に係る学校の相談体制の充実（スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの効果的な配置・派遣、関係機関の連携強化、1人1台端末による「心の健康観察」やいじめに関するアンケートの周知などICTを活用した早期対応の充実等）
○ こどもの健康づくり（運動習慣定着や食生活改善による肥満傾向児の割合減少に向けた取組強化等）

施策2 グローバル社会への対応と主体的に社会に参画する学びの推進

【現状・課題→主な取組】
○ 英語での意見交換等の機会、海外の高校等との教育交流及び連携体制と環境整備の不足
→ 英語を活用した海外高校生徒との協働探究学習の実施、海外派遣や国際交流事業の実施
○ 人口減少に伴い、地域の持続可能性が懸念される中で、地域課題を解決できる人財の育成と探究学習の充実が必要
→ 持続可能な開発のための教育（ESD）を通じ、本県の課題や可能性を探究する「あおもり創造学」の実施

【参考指標等】

図３ 本県生徒の英語力の状況



資料：文部科学省「英語教育実施状況調査」

主体的に未来を切り拓く高校生による「あおもり創造学」プロジェクト事業（2022～）
探究セミナーの様子



【今後の方向性】
○ 外国語教育の充実（教員の指導力向上、英語教育における小・中連携の促進等）、国際的素養を身につけたグローバル人財の育成（国際バカロレアの理念に基づく教育の推進、国外の高校生との教育交流の推進等）
○ 探究的な学びの実装（あおもり創造学の拡充、探究的な学びの視点に立った授業づくりの推進等）等によるこどもの意欲や主体性を育む学びの実現と、郷土への愛着を深める取組の推進
○ 主体的に社会の形成に参画する教育の推進（ESD*、防災教育等）

*ESD…持続可能な開発のための教育

施策3 「生きる・働く・学ぶ」をつなぐキャリア教育の推進

【現状・課題→主な取組】

○ 新規高卒者の就職者における県内就職希望者の割合は増加傾向にあるが、県内就職率は依然として低いため、生徒の発達段階に応じた、地域におけるキャリア教育の促進が必要

→ 中学校や高校におけるインターンシップ等の体験活動、地域に根ざしたキャリア教育推進フォーラムの開催、県立高校12校へのキャリアサポートスタッフの配置、キャリア形成講座・研修会の開催、県内企業との交流会等の開催

【参考指標】

図４ 本県新規高卒者の県内就職率の推移

卒業年月	県内就職希望者	県内就職内定者
	前年６月時点	当年３月末時点
令和４年３月	６８.０％	**６２.３％**
令和５年３月	６７.５％	**５９.０％**
令和６年３月	６８.７％	**５７.４％**
令和７年３月	７１.６％	**５６.４％**
令和８年３月	７０.６％	**５４.９％**

資料：青森労働局

図５ 東北各県における新規高卒者の県内就職率の状況

	令和６年３月卒	令和７年３月卒
青森県	**５８.９％（47）**	**６１.２％（46）**
岩手県	７１.３％（37）	７１.８％（37）
宮城県	７９.７％（28）	７８.０％（28）
秋田県	７１.４％（36）	７３.８％（34）
山形県	８０.１％（27）	７７.３％（29）
福島県	８２.８％（20）	８１.２％（21）
東北平均	**７５.２％**	**７４.７％**
全国平均	８１.６％	８０.５％

（ ）は都道府県順位

資料：文部科学省「学校基本調査」

※図４ 青森労働局における調査では公務員、自営等の就職が除かれているが、図５ 文部科学省「学校基本調査」では公務員、自営等の就職が含まれているため、就職率に差がある。

【今後の方向性】

○ 高校生の県内定着に向けた、地元企業等との連携による中長期的な視点に立った全ての高校生に対するキャリア支援による産業・職業の理解促進（キャリアサポートスタッフの配置、キャリア形成講座・研修会の開催）

○ 郷土の価値の再発見による地域への愛着や郷土愛の醸成（地域の大人がふるさと青森の良さや青森で働く魅力を伝える交流会の開催等）

○ 専門高校における職業教育の充実や産官学の連携による地域の産業・生活を支える担い手（職業人）育成

施策4 多様な教育的ニーズへの対応

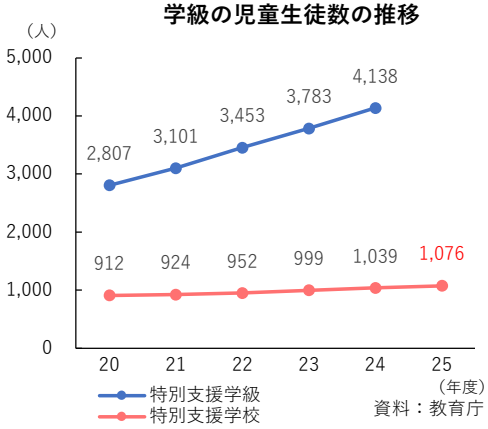
【現状・課題→主な取組】

○ 特別な教育的支援を要する児童生徒や、不登校児童生徒等は増加傾向にあり、個に応じた具体的支援や教員の専門性向上が必要

→ 県内高校4校へのスクールライフサポーターの配置、校内教育支援センターの整備・支援

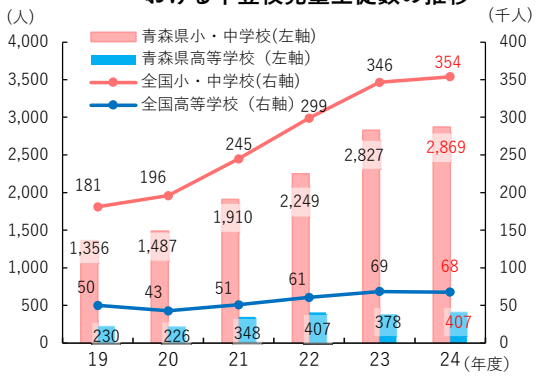
【参考指標】

図６ 本県特別支援学校及び特別支援学級の児童生徒数の推移



資料：教育庁

図７ 小・中学校及び高等学校における不登校児童生徒数の推移



資料：文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」

【今後の方向性】

○ 障がいの種類や状態に応じたコミュニケーション手段やデジタル技術の活用

○ 通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対する指導・支援の充実（スクールライフサポーターの配置等）、インクルーシブ教育の推進

○ 特別な支援を要する生徒への職業教育や進路指導の充実（地域企業等と連携・協働した技能検定・発表会の実施等）

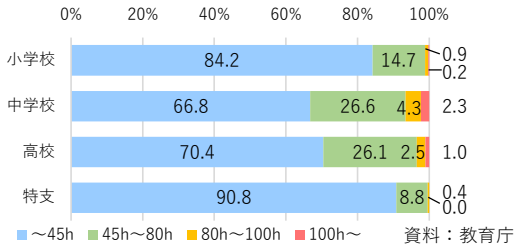
○ 一人ひとりのニーズに適した学習支援を通じた多様な学びの機会確保（校内教育支援センターの支援員の配置・物品整備、外国につながりのあるこどもに対する日本語の学習機会の提供等、医療的ケア児の通学支援等）

施策5　こどもの学びを支える教育環境の整備ときめ細かな指導の充実に向けた人財の確保・育成

【現状・課題→主な取組】
○ 安心・安全な学校施設の整備と魅力ある教育環境づくりが必要
→ 耐震対策改修の実施、避難所機能強化として体育館へのエアコン等の整備特別教室等へのエアコン等の整備やトイレの洋式化等、県立高等学校教育改革の推進（学科改編、全国からの生徒募集等）、令和10年度以降の学校・学科等の魅力づくりに関する「前期実施計画（先行版）」の策定
○ 学校の業務が複雑化・多様化しており、教員をサポートするための体制づくり（学校の働き方改革の推進、多様な人財の確保）が必要
→ 市町村が行う学校の外線電話への通話録音・告知機能導入告知の支援、学校問題解決支援窓口の設置、主体的に業務改善に取り組む学校に対する外部コンサルティングを活用した伴走支援、スクールサポートスタッフを全ての公立学校に配置
○ 大学院・教職大学院へ教員の派遣（弘前大学教職大学院への教員の長期派遣研修に係る授業料を支援）

【参考指標等】

図８ 教育職員の一箇月当たりの時間外在校等時間の状況（2025年度）



資料：教育庁

学校業務改善伴走型支援（2024～）
ワークショップの様子



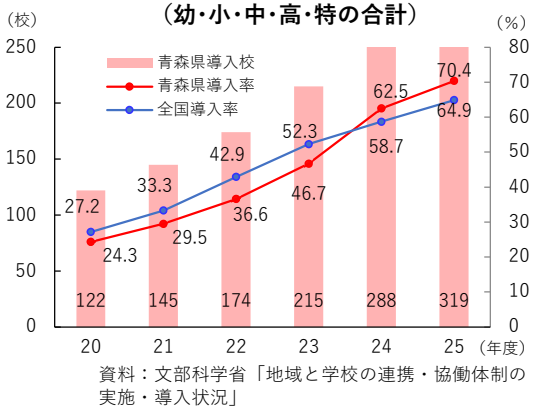
【今後の方向性】
○ 安心・安全な学校施設の整備（トイレの洋式化、体育館・特別教室等へのエアコン整備等）
○ 県立高校の魅力づくりの加速化（学校・学科等の魅力づくりと学校配置を一体的に示す前期実施計画の策定）
○ 教職員の働き方改革による余白づくり（学校の伴走支援と相談対応の強化、自動採点システムの活用やオフィスツールのクラウド化等の教育DXの推進）
○教育を担う多様な人財の活用（スクールサポートスタッフ、スクールライフサポーター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、部活動指導員等）
○ 教員の確保と定着（教員の魅力発信動画作成・SNS等による情報発信）

施策6　学校・家庭・地域の連携・協働の推進

【現状・課題→主な取組】
○ 地域学校協働活動の活性化が必要
→ コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向けた会議の開催
○ 学校が望む地域との連携・協働の推進が必要
→ 地元企業と学校のネットワーク会議の開催
○ 部活動及び地域クラブ活動の環境整備・充実が必要
→ 部活動指導員の配置（R8運動部149人、文化部28人）、指導者人材バンクの運用

【参考指標等】

図９ コミュニティ・スクール導入状況
（幼・小・中・高・特の合計）



資料：文部科学省「地域と学校の連携・協働体制の実施・導入状況」

地域と中学校が連携・協働して実施した地域住民と生徒の交流会の様子



【今後の方向性】
○ コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進（研修会開催や相談対応等市町村における地域学校協働活動の支援等）
○ 学校と地域・企業等をつなぐ人財の育成、地域や企業と連携した取組の推進（キャリア教育を支援する企業の新規開拓と更なる活用等）
○ 部活動の地域連携や、地域クラブ活動への展開の促進（部活動指導員の配置、指導者人材バンクの周知、地域展開に向けた実践研究等）

施策7　地域の強みを生かした地域づくりと人づくり

【現状・課題→主な取組】
○ 持続可能な地域づくりに向け、未来を担う人財の育成、確保、ネットワークづくりの強化が必要
→ 核となる人財の育成とともに、地域人財によるネットワークづくりによって地域活動を企画・実践する取組の実施

【参考資料】

社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業(2018～)



市町村の社会教育主事等と地域関係者との協働による事業実践を通じ、社会教育を担う人財を育成

パワフルＡＯＭＯＲＩ！創造塾(2012～)



地域を担う人財の育成と、地域活動に関わる関係者等とのネットワーク形成を促進

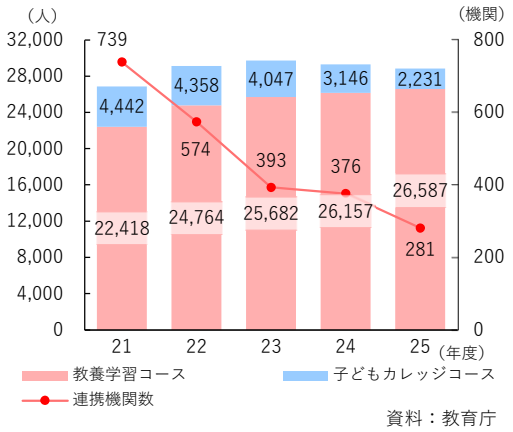
【今後の方向性】
○ 幅広い年齢層を対象とした人財の育成(持続可能な地域活動を支える人財の育成、ネットワークづくり等)
○ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援(社会教育主事の資質向上等)

施策8　人生100年時代の学び直しや生涯学習の推進

【現状・課題→主な取組】
○ 多様化・高度化する県民の学習ニーズに応じた学びの機会提供が必要
→ あおもり県民カレッジの、連携機関との密接な連携による運営と情報誌による啓発活動
○ 社会教育推進のための基盤整備が必要
→ 社会教育主事講習の受講の働きかけ

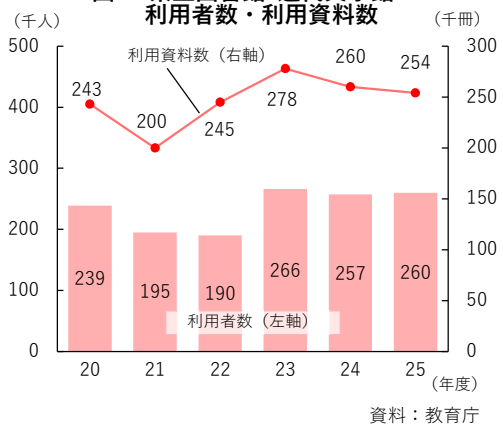
【参考指標】

図10 あおもり県民カレッジ学生数等



資料：教育庁

図11 県立図書館・近代文学館の利用者数・利用資料数



資料：教育庁

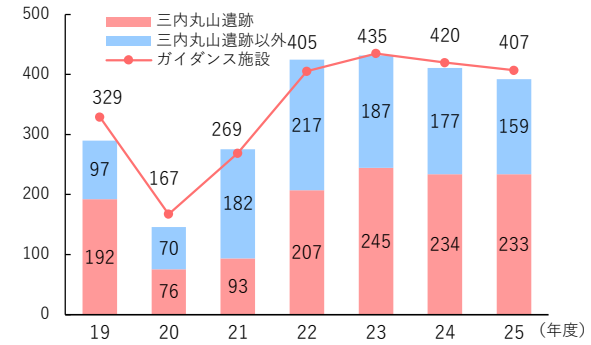
【今後の方向性】
○ 講座やイベント等の機会を通じた学びの機会の提供と情報発信の継続(あおもり県民カレッジにおける、よりタイムリーな内容の講座の開催、イベント等によるPRの注力)
○ 社会教育を進める人財(社会教育主事等)の育成

施策9　歴史・文化の価値や魅力に対する理解と活用の促進

【現状・課題→主な取組】
○ 世界遺産の価値や魅力の浸透と観光客等の受入態勢の充実が必要
→「北海道・北東北の縄文遺跡群」のフォーラムの開催、来訪・周遊促進のためのデジタル御朱印企画、来訪者動向調査の実施、「青森の縄文遺跡群」5周年記念催事、出前講座の開催
○ 地域の祭りや伝統芸能を鑑賞・体験できる機会の減少に対応するため、無形民俗文化財の継承促進が必要
→ 無形民俗文化財の鑑賞・体験機会の充実（「あおもり民俗芸能活性化大会」の開催）
○ 県立郷土館が休館中のため、県民が郷土資料に触れる機会の創出が必要
→ 多様な媒体を活用した情報発信、土曜セミナーや出前授業等の教育普及活動及び国重要文化財等のデジタル化・ホームページでの公開

【参考指標等】

図12 縄文遺跡群の年別来訪者数の推移



資料：縄文遺跡群世界遺産本部

あおもり民俗芸能活性化大会の開催（2025～）



「あおもり民俗芸能活性化大会」の様子

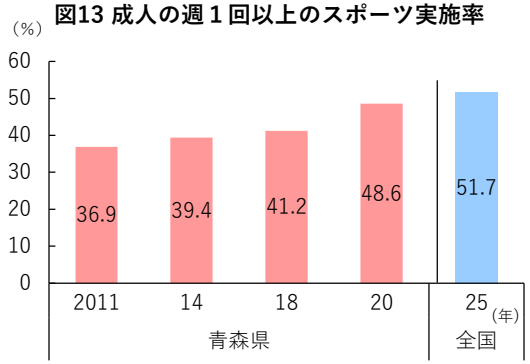
【今後の方向性】
○「北海道・北東北の縄文遺跡群」の認知度向上（県内外への情報発信等）、受入態勢の充実、デジタル技術の活用等による新たな価値の創出と地域活性化の推進
○ 無形民俗文化財の継承方法の充実と保存団体の活動支援、地域の祭りや伝統芸能等の鑑賞・発表機会の充実による担い手確保（「あおもり民俗芸能活性化大会」等）
○ ふるさと青森の自然や歴史、文化への理解促進と魅力発信（収蔵資料のデジタル化等）

施策10　楽しく体を動かしスポーツに親しむ環境づくりと競技力の向上

【現状・課題→主な取組】
○ あおもり国スポ後の競技力の維持・向上が必要
→ ジュニアアスリートの発掘・育成、有力選手等の県内定着の推進、スポーツ環境の充実
○ 運動を習慣化するための機会や場所等の確保が必要
→ 部活動の地域展開に向けた実践研究、指導者確保のための人材バンクの運用、総合型地域スポーツクラブの認知度向上

【参考指標等】

図13 成人の週１回以上のスポーツ実施率



資料：教育庁「県民の健康・スポーツに関する意識調査」
スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」

広域スポーツセンター運営事業



総合型地域スポーツクラブの育成推進の核となる人財の育成を図ることを目的にクラブマネージャー養成講習会を開催

【今後の方向性】
○ あおもり国スポ後の本県選手の競技力の維持・向上（ジュニアアスリートの育成、有力選手・指導者等の県内定着の推進、スポーツ環境の充実）
○ 楽しく体を動かし、運動を習慣化させる機会の創出（総合型地域スポーツクラブの活動充実に向けた支援等）

施策5　こどもの学びを支える教育環境の整備ときめ細かな指導の充実に向けた人財の確保・育成

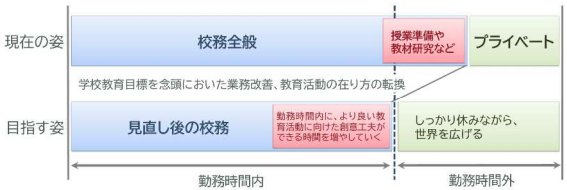
学校における働き方改革の取組

学校における働き方改革プラン（R8～R10） 令和8年2月策定

【目的（目指す姿）】
教職員が、心と体の健康を維持しながら安心して働くことができる職場環境のもと、一人一人が能力を発揮することで、学校教育の質の向上と持続可能な学校を目指す。



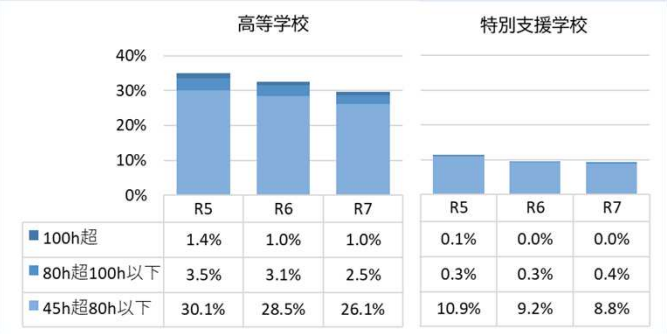
心と体の健康という土台のもと、一人一人が能力を発揮できるようになることで、学校教育の質の向上につながる。



勤務時間外を教職員が自分のために使う時間に。
勤務時間内に教材研究等ができる時間を増やしていく。

※取組ごとに評価指標を設定し、毎年度、進捗状況を確認する。

【1箇月時間外在校等時間の平均時間が月45時間を超える教育職員の割合】



	高等学校 R5	高等学校 R6	高等学校 R7	特別支援学校 R5	特別支援学校 R6	特別支援学校 R7
100h超	1.4%	1.0%	1.0%	0.1%	0.0%	0.0%
80h超100h以下	3.5%	3.1%	2.5%	0.3%	0.3%	0.4%
45h超80h以下	30.1%	28.5%	26.1%	10.9%	9.2%	8.8%

○月45時間を超える職員の割合
いずれの校種も減少傾向。

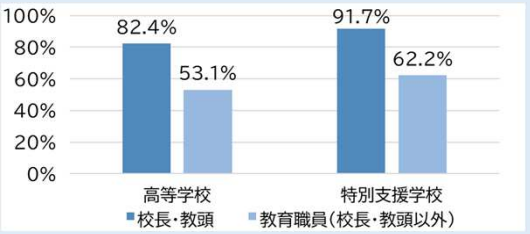
○月80時間を超える職員の割合
高等学校では80時間を超える職員の割合が減少している一方、100時間を超える職員も一定数いる状態。
特別支援学校では0.4%前後で推移。

【負担感や多忙感を解消してほしいと思う業務（上位3つ）】

○ 高等学校
- 部活動に係る指導・引率
- 調査への回答・報告書等の書類作成
- 分掌業務

○ 特別支援学校
- 会議・打合せ（校内外問わず）
- 分掌業務
- 調査への回答・報告書等の書類作成

【働きやすい学校づくりに向けて、気軽に話し合ったりすることができていると感じる教育職員の割合】



※R7教職員アンケート調査結果より

R8の主な取組

○ **外部人財の活用による業務の役割分担**
- 部活動指導や大会引率を行う部活動指導員の配置拡充、全ての公立学校へのスクールサポートスタッフの配置

○ **ICT等を活用した業務の効率化**
- 県立学校へのICT教育サポーターの配置、自動採点システム等の校務DXの推進

○ **学校運営上のトラブルに対応する教職員の心的負担の軽減**
- 県立学校への通話録音・告知機能導入の促進
- 学校問題解決支援窓口の設置（学校問題解決支援コーディネーターの配置）

○ **学校や市町村教育委員会の取組への支援**
- 教育の質の向上と教職員の業務負担軽減の両立に向け、学校の主体的な業務改善やこども自ら学びを進める単元づくりへの伴走型支援の実施
- 学校や市町村教育委員会における各種取組の事例紹介
- 市町村が行う、学校の働き方改革に向けた統合型校務支援システムや通話録音・告知機能の導入等、環境整備に係る取組への補助

○ **部活動改革の推進**
- 部活動の地域展開に向けた体制整備

令和9年度の重点項目

教育改革有識者会議提言への対応

1 こどもたちの生きる力を育む学びの推進

教育DX、探究的な学びの実装、多様な学びの機会確保、教育環境の整備・充実

Ⅱ 教育DX、学びの環境アップデート

2 教職員のウェルビーイングを高めるための環境整備

働き方改革による余白づくり、多様な人財の活用、教員の確保・定着

Ⅰ 学校の働き方改革、教職員のWell-Being向上

Ⅲ 学校の経営力強化

3 ふるさとを愛する心を育む教育の推進

郷土の価値の再発見、県内定着に向けた産業や職業の理解促進、文化財の魅力発信

Ⅱ 教育DX、学びの環境アップデート